

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4年 12月 1日

事業所名 AIAI PLUS 八千代ゆりのき台四丁目

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		児童発達支援ガイドラインを参考に一人当たり2.47平方メートル以上の床面積を確保することが出来ている。	
	②	職員の配置数は適切である	1	4	法令上の基準人員の配置を行っている。一対一を基本とする手厚い支援をしている。	より手厚い支援の提供の為、専門スタッフ等の新規採用を実施中。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	2	指導訓練室や学習室等の部屋に番号を掲示した、荷物を置くロッカー等に絵を掲示する等構造化し能動的に動ける環境設定を行っている。	幼児用トイレに段差がある為、手すりの設置等を検討中。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		毎日の清掃とお子様の使用後の教材等は消毒を行っている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3	1		昼礼等にて施設の課題抽出・改善を行っている。全職員が参加できるような機会を増やしたい。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		支援内容等だけでなく、施設への要望・改善してほしい点等アンケート実施している。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		初年度につき、今回初めての実施となる。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4		初年度につき、今回初めての実施となる。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		動画による研修受講や施設内研修の実施している。	

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	3	1		
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		お子様の発達の段階や利用時の様子等に応じて内容の難易度等を変更し工夫している。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4		1対1が基本だが、発達の状況やニーズに合わせて他児がいる状況での小集団で学習等を行っている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		朝礼・昼礼後に担当職員と支援の内容等の確認を行っている。	多面的な視点での対応が難しくなる可能性がある為、前回対応職員を確認し、支援の多様性を図る。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		職員間にて様子等共有と気づいた点において記録時共有している。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		利用時には必ず支援記録を残している。毎回、前回の記録を確認し、次の支援につなげられるように工夫している。	
⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4				
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		児童発達支援管理責任者が参画。新型コロナウイルスの影響もあり、電話にて実施。	

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		4	八千代市児童発達支援センター内ことばと発達の相談室に支援の方法等共有して助言をいただいている。	
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		4	現在医療的ケアが必要なお子様はいない。	
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		4	現在医療的ケアが必要なお子様はいない。	
	㉓	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		利用者の通う保育園や幼稚園等と情報共有を図っている。	緻密な連携と言える状況ではないため、より詳細な情報共有ができるようにする。
	㉔	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		4		開設初年度の為、就学先との連携は未実施。今後は連携、対応が必要。
	㉕	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4		市の児童発達支援センターを利用しているお子様の情報共有と共に支援の助言をいただいている。	職員研修等は新型コロナウイルスの影響を鑑みつつ、今後機会があれば参加。
	㉖	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		4	利用者同士が交流する機会は現在設けていないものの、利用者の年齢は多岐にわたる。	保護者様のご意見等を踏まえ、開催を検討する。
	㉗	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	4	放課後連等に参加している。	
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		送り迎えの際に一日のフィードバックの時間を十分に設けている。	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	1	お子様への対応についてご相談を受けた際には対応の仕方を伝達している。また、その後の様子等を共有いただいている。	対面形式のペアレントトレーニングに関しては新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、複数参加での開催は控えている。今後の状況を見極め、感染防止対策を万全にして開催したい。
	㉚	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1	契約時に必ず行っている。	管理者以外の職員が利用者負担等の説明が出来ないことがある為研修等により、職員の理解を深めるようにする。

保護者への説明責任等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		ガイドラインに基づいて作成し説明し同意を得ている	
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		都度要望がある時、時間を取り行っている。	対応できる職員に限られるため、後日になってしまうことがある。職員の新規採用や研修等によりスキルアップを図る。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	3		新型コロナウイルス対策のため保護者交流の機会をつくれていないが、保護者様同士の繋がりの持てる機会を設けたい。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	3	1	利用後のフィードバックを行う際に保護者の相談に乗っている。必要な場合は別途相談の時間をとり対応している。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1	月に一回、AIAI PLUS 通信を発行し、そちらに連絡先を記載している。	現在、電話以外のコミュニケーションツールを検討している。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	4		注意している。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		視覚・聴覚等の発達に合わせた配慮をしている。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3		要望があれば検討したい。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	2	マニュアルは整備されている。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	2		
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4		契約時、および利用時に保護者様からお子様の詳細な情報を聞いている。	

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		4 食べ物の持ち込みを原則禁止している為、対応する機会はほとんどない。ただし、利用者の食物アレルギー等については、職員間で情報を共有している。	
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	小さなことでも記録するようにしている。	職員によって記録の頻度等に偏りが見られる為、改善する。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	虐待の目チェックリストを全職員が共有し、チェックしている。	事例検討等より具体的な内容の研修等の整備を進めたい。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		4 やむを得ない状況において身体拘束を行う場合があることを個別支援計画書に記載、説明し同意をいただくようにしている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。